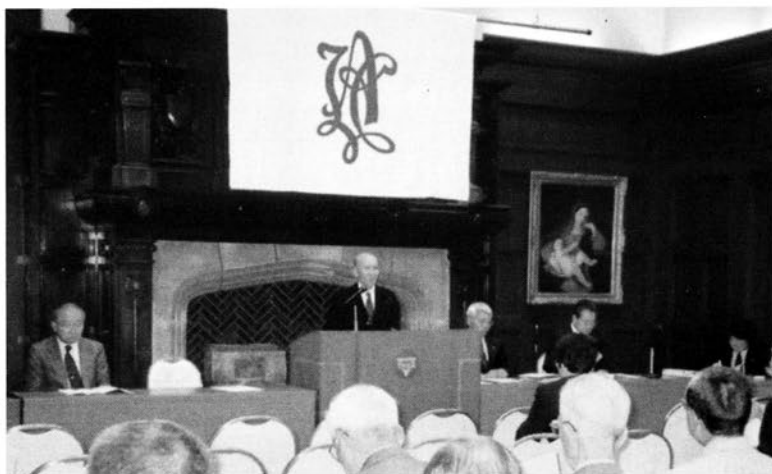


平成14年度通常総会 100周年事業の準備進む 「全員参加」をモットーに



総会であいさつする大塚会長 (中央)

2002 年 (平成 14 年)
6 月号 (No. 685)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-info@jac.or.jp

目 次

平成14年度通常総会 100周年事業の準備進む	1
平成13年度事業報告・収支計算書	4
正味財産増減計算書・貸借対照表	5
財産目録	6
監事監査報告・平成14年度事業計画	8
平成14年度収支予算書	9
報告	
自然保護委員会・高尾の森植樹	10
92同期会・高尾の森／三水会・竹寺山行／山ゲラの会・クロカンスキー	11
Climbing & Medicine	10・12
支部だより	
宮崎 秋田	13
海外の山	14
東西南北	
『スウィス日記』のエッシネン湖周辺／悪沢岳がとりもつ縁、大村晃平の子孫のこと	15
登山と呼吸 (下)	17
新入会員	18
会務報告	20
図書受入報告	21
INFORMATION	22
ルーム日誌	23

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時
ルーム夏期休業日 8月10~18日

平成14年度通常総会が5月18日14時から、東京・千代田区の東京YMCAホテルで開かれた。総会には、会員124人が出席し、①平成13年度事業報告および収支決算・財産目録の承認②平成14年度事業計画および収支予算の承認③細則の一部改正④平成14年度除籍予定者の件、について慎重審議した結果、いずれも原案どおり可決承認した。(事業報告などの詳細内容は別掲)

■会長報告 文化事業面でも活発な動き

議案審議に先立ち、大塚博美会長は次のように報告した。

一、かねて100周年事業の土台づくりをやっていたと、言

ってきた。機関誌『山』に紹介したように三つのことを指針とした。第一は100年の伝統をいかに表現するか、第二は将来に残る事業に重きを置く、そして第三は会員の全員参加をモットーとすることである。これから組織をつくり推進していくが、会員ひとりひとりが「自分の会の100年だ」という思いをしていただきたい。

一、まあまああの山登りをやっていると思う。海外登山基金の助成対象となった日印合同の東カラコルム踏査・パドマナブ登山、ナムチャバルワにつらなるサンルン登山、チベット・ヤルツァンポ河源流域登山は、いずれも7000級級の未踏峰への挑戦である。さらに、ことしの秋には日中合同で女性だけのパーティーがチョー・オ

ユーに挑戦する。

一、文化的な面でも活発な動きがあった。英文のアルパイン・ニュース第2号を発刊、欧米等からたいへん高い評価を受けた。ことは「国際山岳年」だが、これに日本山岳会は積極的に参画、日本委員会の委員となった。すでにいくつかのフォーラムが開かれており、夏には大雪山で北海道支部が、富士山では山梨と静岡支部が参画する。

■事業報告・収支決算 会費納入率は99.8%

この日の総会には2720の委任状が提出された。現在在籍者は5986人であり、出席者を合わせると、会員の3分の1を上回っており、総会は成立した。議事録の署名人には高原三平、費田統亜の両会員が指名された。

平成13年度の事業報告は西村政晃総務担当常務理事、収支決算及び財産目録は村井龍一副会長財務担当が詳細に説明した。

〔事業報告〕 事業活動は活発だった。4月5～11日には日韓両国の学生が谷川岳で交流登山をした。

6月3日には信濃支部主管で第55回ウェストン祭が開かれ、300人を超える参加者を得た。全国支部懇談会は9月29～30日に石川支部が主管し片山津で行った。177人が参加。これを機に加賀市長が日本山岳会会員になるなど盛会だった。10月6～7日には自然保護全国集会が大台ヶ原で開かれた。年次晩餐会は12月1日に開催、第4回秩父宮記念山岳賞が山本正嘉氏に授与された。会員名簿はB5版に改め大きくした。100周年記念事業の準備として、「百年史」、「新日本山岳誌」の編集などが着実に進められた。「新日本山岳誌」には5つの支部から原稿が提出された。

〔収支決算等〕 収支決算は、収入が9287万円となり、予算を1048万円上回った。会費・入会金は7066万円で収入全体の76.1%を占めた。会費納入率は99.8%の高率を維持した。補助金収入のうち200万円は「高尾山の森づくり」に対する国土緑化推進機構からの助成金、また484万円は日本山岳会が松本市で開かれた世界岳都都市会議に協力したことに対する同市からの助成金。その他事

業収入は「山岳」複製版の印税、グッズの販売収入など。

支出は9336万円で、予算を671万円上回った。海外向け英文誌の発行や「百年史」の編集、また「高尾山の森づくり」や世界岳都都市会議での活躍、ルーム211号室を借り増したことなどで支出が増えた。通常経費は極力節約した。支出合計に対する事業費支出の割合は61%だった。文部科学省からは50%を上回るようにといわれている。当期収支は48万のマイナス。次期繰越は1836万円、期末正味財産合計額は4億1744万円となった。

これらに対し古市進監事から収支計算書等が正確かつ妥当であり、さらに理事の業務執行が誠実に行われたことを認める監査報告があった。

■14年度事業計画・収支予算 全国支部懇談会は広島で

平成14年度の事業計画・収支予算についても、西村常務理事、村井副会長が詳細に説明した。

〔事業計画〕 自然保護委員会が高尾山で実施した植樹祭には300

人を超える参加者があった。自然保護全国集会は7月12～14日に北海道・大雪山で行われる。全国支部懇談会は9月21～22日に広島支部が主管して宮島で行われる。年次晩餐会は12月7日に新高輪プリンスホテルで行う。100周年記念事業の「新日本山岳誌」の編集は、今年度中に原稿をそろえる予定だ。海外登山については、日印合同登山の日本隊が5月9日に出発した。また日中国交正常化30周年を記念し女性だけの日中合同登山隊がチヨウ・オユーに挑戦する。8月中旬から2カ月の予定。

〔収支予算〕 これらに対する予算は、収入を8442万円とした。

前年度予算に比べ203万円の増加。会費・入会金収入が収入の86%を占める。新入会員は230人と見込んだ。支出は前年度予算に比べ194万円多い8859万円。会員名簿は作成しないが、ルームの借り増しで賃借料などが増加する。また山岳研究所の運営費を修理費増などで増額した。収支は417万円のマイナスとなる。なお、平成14年4月から銀行預金等のペイオフが実施された。適切な対策を実施していきたい。

■細則の一部改正

26歳未満の会費を割引

細則の一部を改正する案が提出された。3点あり、西村常務理事が趣旨を説明した。第一は理事の選挙に関するもの。第二は26歳未満の会員の年会費を6000円に改めるもの。第三は第2・4土曜日も休室日とするもの。

若年会員の年会費の減額は、昨年実施したアンケートで若い人をふやす方法として会費の割引の是非を質問したところ、39%の会員が賛成したいきさつもある。現在、26歳未満の会員は13人しかいない。多くは期待できないが、若年化へ対策は着実に講じていきたい。

4号議案は除籍対象者の件。平成14年度は91人となった。会費を2年間滞納した人が対象となる。除籍者は平成11年度が34人、12年度が45人、13年度が50人と漸増傾向にある。知人に声をかけて会費を納めて留まるよう勧めてほしいという要請があった。

■報告事項

信濃・東海の支部長代わる

支部長の交代が紹介された。新

支部長は次のとおり。

信濃	中野 和郎
東海	寺西 申生

総会終了後、午後4時から同所で懇親会を開いた。渡辺兵力名誉会員の音頭で乾杯し、和やかな歓談を続けた。

■質疑応答

会員減少の懸念ないか

柴田篤志会員(4932) 収入のなかで会費・入会費収入は大きな比重を占めている。その会員の増加が少ない。減少する懸念はないか。入会申請者はすべて入会させているか。あまり経験のない人を入会させるのはよくないが。村井副会長 13年度は1966人の入会があった。退会者、物故者、除籍者を差し引くと、純増は2人にとどまった。

大塚会長 入会を拒否したことは私の記憶にはない。議論があったことはあるが、少なくともあたから拒否したことはない。

石田稔郎会員(6065) 30年ほど前に東京支部が解散し日本山岳会が東京都岳連に加盟した。ず

いぶんたったのだから、日本山岳会が都岳連を脱退し東京支部が加盟してはどうか。

大塚会長 東京支部が加盟するといつても、現実にはないのだからそれをつくるのが検討事項となる。東京支部の復活を訴え続けておられ、貴重な意見とは思っているが、いまはまだその時期ではない。

石田会員 私の会員証には所属支部が首都圏となっている。

大塚会長 首都圏というのは支部の形態をなしていない。所属がなくなるので便宜上、そうしているにすぎない。

篠田一郎会員(4345) 若年会員の年会費の割引について、対象年齢をもう少し繰り上げてはいかがか。30歳未満ではどうか。

西村常務理事 26歳未満についてすでに入会金を免除している。今回はそれに加えての措置だ。

この会費割引については、このほか「効果なし」という指摘や「大学山岳部などに入会を積極的に関与させる」という提案、反対に「会員は平等であるべきだ」などの発言があった。

(写真・今村千秋、文・高橋重之)

◆支部長会議

総会に先立って平成14年度の支部長会議が開かれた。大塚会長が「会の創立100周年の事業が大変な問題であり、すでにホームストレッチに入っている。今回は出来るだけ各支部が中心となり、会員一人ひとりが式典に参加する意識をもってもらいたい」と挨拶した。質疑では「百年史委員会」の松田雄一委員から、編集作業の進捗状況の説明と各支部への原稿提出への協力要請があった。

同じく100周年記念事業計画のひとつである「中央大分水嶺の一斉踏破」について、科学委員会の藤本慶光理事から、計画の実施時期や基本的な考え方などが説明された。これに対して各支部長からは「過去に支部で県境踏破をトライしたが名も無き山やブッシュの連続で断念した」「過去に行ったことがあるが、現在は支部会員の高齢化で実施は難しい」「分水嶺のピークを登るのなら可能だが縦走はどうか」など活発な意見が相次いだ。今回の意見を踏まえて科学委員会では具体的な計画を作成し、改めて協議することを確認した。

(今村千秋)

- * 上高地山岳研究所の運用
- * 受入れ資料保管
- * 各博物館、美術館との提携強化
- * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導

* 7月 全国山岳遭難対策協議会 (文部科学省主催) 出席

4. 自然保護活動の推進

- * 自然保護委員会による自然保護指導者養成のための「山の自然学講座」
- * 自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行
- * 自然保護委員会による「高尾の森づくり」

5. 機関誌等の発行

- * 山岳第96年 (2001年) の発行
- * 会報671号～682号の発行
- * インターネット・ホームページの更新
- * 会員名簿 (2001) の発行
- * 海外向英文誌「Japanese Alpine News」の発行
- * 青年部会報「きりぎりす」の発行
- * 「8000m峰登頂者は語る」の発行

6. 国内及び外国山岳団体との情報交換

- * 国内関係団体 (日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HAT-J・その他) との連絡
- * 海外登山団体との機関誌の交換及び情報誌の購入
- * 「国際山岳年」記念事業企画に参加・協力

7. その他目的を達成するために必要な事業

- * 山岳図書の整備
- * 山研ミニ水力発電装置稼働運営
- * 海外登山基金による助成
- * 第4回秩父宮記念山岳賞の授与
- * 100周年記念事業の計画推進
- * 百年史の編集
- * 「新日本山岳誌」の編集
- * その他

収 支 計 算 書

平成13年4月1日～平成14年3月31日

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	30,000	13,879	16,121	
2. 会費・入会金収入				
入 会 金 収 入	4,000,000	3,600,000	400,000	
復 活 会 費 収 入	0	180,000	△180,000	
通常会費収入	67,000,000	66,340,000	660,000	
終身会費収入	0	540,000	△540,000	
会費・入会金収入計	71,000,000	70,660,000	340,000	
3. 事業収入				
広 告 料 収 入	2,900,000	3,652,500	△752,500	
印 税 収 入	10,000	0	10,000	
刊行物売上収入	250,000	187,700	62,300	
山研使用料収入	3,000,000	2,928,561	71,439	
その他事業収入	4,200,000	6,899,583	△2,699,583	
事業収入計	10,360,000	13,668,344	△3,308,344	
4. 補助金等収入				
補 助 金 収 入	0	6,841,560	△6,841,560	(注)1,2

(社)日本山岳会 平成13年度事業報告

2001年4月1日～2002年3月31日

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、及びシンポジウムの開催
 - 4月5～11日 日韓学生交流登山 (学生) 谷川岳周辺
 - 5月10日 新入部員歓迎会 (学生) 本会
 - 5月18日 支部長懇談会 (総務) 東京グリーンホテル
 - 5月19日 支部長会議 (総務) 東京グリーンホテル
 - 5月19日 通常総会 (総務) 東京グリーンホテル
 - 5月25・26日 第21回日本登山医学シンポジウム (医療) 鳥取県大山町
 - 6月2・3日 新入会員のための「徳本峠越えとウェストン祭」 (山研) 上高地
 - 6月3日 第55回ウェストン祭 (信濃支部) 上高地
 - 6月9日 第8回 古道を歩く (図書) 箱根
 - 6月17・18日 探索山行「志津倉山ブナ林を訪ねる」 (科学) 福島県三島町
 - 6月23・24日 自然観察山行 (自然保護) 日光
 - 6月27日 講座「気象：雲の形と前線」 (科学) 本会
 - 6月28日 中国岩場開拓報告会 (青年部) 本会
 - 7月4日 委員会・同好会連絡会議 (総務) 本会
 - 7月12日 前期納会 (学生) 本会
 - 8月17・19日 フォーラムイン鳥海 (自然保護) 鳥海山
 - 9月1日 ビールパーティー (総務) 本会
 - 9月8日 名誉会員を囲む会 (総務) 本会
 - 9月8・9日 沢登り集会 (学生) 奥秩父丹波川本流
 - 9月14～16日 プチ・オータムコンサート (山研) 上高地
 - 9月21日 講演会「ナング・バルバット公算登山を体験して」 (高所) 本会
 - 9月29・30日 全国支部懇談会 (石川支部) 片山津
 - 10月5～8日 きこの山行 (集会) 白神山地
 - 10月6・7日 自然保護全国集会 (自然保護) 大台ヶ原
 - 10月13・14日 ミニ水力発電装置見学と焼岳登山 上高地
 - 10月18日 講演会「道に学ぶ」 (科学) 本会
 - 10月25日 明大G1.G2報告会 (青年部) 本会
 - 10月27日 新入会員オリエンテーション (総務) 本会
 - 11月3・4日 海外週行同人総会出席 (青年部) 加賀・白山
 - 11月17日 シンポジウム「中高年者の高所登山」 (科学) シニアワーク
 - 11月17日 第5回全国山岳博物館連絡会議 (資料) 本会
 - 11月18日 第38回マラソン大会 (学生) 皇居外苑
 - 11月20日 第10回 山を語る (図書) 本会
 - 12月1日 支部長会議 (総務) 新高輪プリンスホテル
 - 12月1日 年次晩餐会 (総務) 新高輪プリンスホテル
 - 12月2日 年次晩餐会記念山行 (集会) 日の出山
 - 12月6日 大学山岳部監督会議 (学生・遭難対策) 本会
 - 12月15日 森づくりシンポジウム (自然保護) 高尾
 - 1月10日 冬山報告会 (学生) 本会
 - 1月29日 医療委員会講演会 (医療) 東京
 - 1月31日 第33回 山岳図書を語る夕べ (図書) 本会
 - 2月9～11日 スキー懇親会 (集会) 八海山
 - 2月15日 講演会「自然の浄化能力」 (科学) 本会
 - 2月17日 クライミング講習会 (青年部・学生) 多摩スポーツ会館
 - 2月20日 初心者のためのビデオワーク (フィルムビデオ) 本会
 - 2月23・24日 支部事務局担当者会議 (総務) グリーンホテル・本会
 - 3月1日 Kurt Diemberger氏を囲む会 (海外) 中日日比谷ビル
 - 3月19日 新人勧誘対策、後期納会 (学生) 本会
2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	0	540,000	△540,000
退職給与引当預金支	0	0	0
特定預金支出計	6,000,000	7,340,000	△1,340,000
5. 敷金保証金支出			
敷金保証金支出	0	540,000	△540,000
6. 予備費			
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	86,650,000	93,362,120	△6,712,120
当期収支差額(A)-(C)	△4,260,000	△486,589	△3,773,411
次期繰越収支差額(B)-(C)	14,590,256	18,363,667	△3,773,411

正味財産増減計算書

平成13年3月31日～14年3月31日

科 目	金 額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
長期計画積立金	5,800,000		
秩父宮記念賞基金	1,000,000		
終身会費積立金	540,000		
敷金保証金	540,000	7,880,000	
2. 負債減少額	0	0	
増加額合計			7,880,000
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
当期収支差額	486,589		
棚卸資産	10,578		
什器備品	200,000	697,167	
1. 負債増加額	0	0	
減少額合計			697,167
当期正味財産増加額			7,182,833
前期繰越正味財産額			410,266,089
期末正味財産合計額			417,448,922

貸借対照表

平成14年3月31日現在

科 目	金 額		
[I] 資産の部			
1. 流動資産			
現金	9,543		
振替貯金	879,800		
普通預金	13,819,734		
定期預金	0		
未収会費	3,960,000		
棚卸資産	1,796,798		
流動資産合計		20,465,875	
2. 固定資産			
基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他の固定資産			
土地	46,297,170		
建物	144,423,000		
什器備品	9,584,982		
敷金	840,000		
秩父宮記念賞基金	14,000,000		
長期計画積立金	63,393,305		

5. 寄付金収入			
寄付金収入	0	120,000	△120,000
募金収入	0	0	0
寄付金収入計	0	120,000	△120,000
6. 雑収入			
受取利息	200,000	315,181	△115,181 (注)3
雑収入	800,000	1,256,567	△456,567
雑収入計	1,000,000	1,571,748	△571,748
7. 特定預金取崩収入	0	0	0
当期収入合計(A)	82,390,000	92,875,531	△10,485,531
前期繰越収支差額	18,850,256	18,850,256	0
収入合計(B)	101,240,256	111,725,787	△10,485,531

(注) 1「社団法人国土緑化推進機構」助成金 ￥2,000,000-

2「松本市役所観光温泉課」助成金 ￥4,841,560-

3「受取利息」として他に ￥1,279-がある。

科 目	予算額	決算額	差異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,080,000	9,677,761	1,402,239	
図書管理費	600,000	340,502	259,498	
調査研究費	3,180,000	2,322,353	857,647	
指導費	1,300,000	928,148	371,852	
支部関係費	12,500,000	12,211,842	288,158	
海外諸関係費	400,000	1,005,119	△605,119	
海外登山補助費	1,600,000	1,600,000	0	
山岳研究所運営費	4,040,000	4,108,181	△68,181	
その他事業費	9,000,000	16,346,968	△7,346,968	
印刷・製本費	2,400,000	3,284,887	△884,887	
刊行物発送費	5,300,000	5,211,063	88,937	
事業費計	51,400,000	57,036,824	△5,636,824	
2. 管理費				
給料・手当	12,400,000	12,401,900	△1,900	
文具・消耗品費	300,000	323,155	△23,155	
印刷・製本費	1,000,000	1,117,677	△117,677	
旅費・交通費	700,000	842,880	△142,880	
通信・運搬費	1,200,000	1,003,039	196,961	
保険料	320,000	320,990	△990	
修繕費	300,000	0	300,000	
租税公課	500,000	461,200	38,800	
光熱水料費	600,000	666,402	△66,402	
電話料	470,000	434,437	35,563	
会議費	300,000	147,344	152,656	
什器備品費	300,000	515,655	△215,655	
振替手数料	700,000	644,480	55,520	
福利厚生費	300,000	195,937	104,063	
事務所管理費	1,000,000	947,700	52,300	
その他管理費	3,000,000	2,853,825	146,175	
負担金	120,000	80,000	40,000	
貸借料	3,240,000	4,481,000	△1,241,000	
雑費	1,000,000	1,007,675	△7,675	
管理費計	27,750,000	28,445,296	△695,296	
3. 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	
固定資産取得支出計	0	0	0	
4. 特定預金支出				
長期計画積立金支出	5,000,000	5,800,000	△800,000	
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	1,000,000	0	

什 器 備 品	9,584,982	0	9,584,982
合 計	154,007,982	0	154,007,982

財 産 目 録

平成14年3月31日現在

科 目	金 額	
[1] 資 産 の 部		
1. 流 動 資 産		
現金預金		
現金 現金手許有高	9,543	
振替貯金 東京地方貯金局	879,800	
普通預金		
あさひ銀行市ヶ谷支店	496,473	
東京三菱銀行市ヶ谷支店	13,036,141	
中央三井信託銀行本店	186,563	
中央三井信託銀行新宿西	79,132	
三菱信託銀行日本橋中央	21,425	
未収会費 330名	3,960,000	
棚卸資産 注1)	1,796,798	
流動資産合計		20,465,875
2. 固 定 資 産		
(1)基本財産		
貸付信託 中央三井信託銀行	7,580,000	
貸付信託 三菱信託銀行	420,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2)その他固定資産 注2)		
土 地 57.91484㎡	46,297,170	
建 物 432.63㎡	144,423,000	
什器備品	9,584,982	
敷 金	840,000	
秩父宮記念賞基金		
定期預金・UFJ市ヶ谷	14,000,000	
長期計画積立金		
定期貯金・四番町郵便局	5,043,305	
定期預金・東京三菱市ヶ谷	52,550,000	
普通預金・東京三菱市ヶ谷	5,000,000	
普通預金・第一勧業市ヶ谷	800,000	
海外登山基金		
普通預金・あさひ市ヶ谷	33,600,000	
定期預金・三井住友市ヶ谷	30,000,000	
定期預金・第一勧業市ヶ谷	30,000,000	
終身会費積立金		
定期預金・富士市ヶ谷	17,150,000	
退職給与引当預金		
定期預金・富士市ヶ谷	4,691,620	
その他固定資産合計	393,980,077	
固定資産合計		401,980,077
資産合計		422,445,952
[2] 負債の部		
1. 流 動 負 債		
前受会費		
平成14年度会費 16名分	161,000	
預り金		
職員に対する源泉所得税その他	144,410	
流動負債合計		305,410
2. 固 定 負 債		
退職給与引当金	4,691,620	
固定負債合計		4,691,620

海外登山基金	93,600,000		
終身会費積立金	17,150,000		
退職引当預金	4,691,620		
その他の固定資産合計	393,980,077		
固定資産合計		401,980,077	
資産合計			422,445,952
[2] 負債の部			
1. 流 動 負 債			
前 受 会 費	161,000		
預 り 金	144,410		
流 動 負 債 合 計		305,410	
2. 固 定 負 債			
退 職 給 与 引 当 金	4,691,620		
固 定 負 債 合 計		4,691,620	
負 債 合 計			4,997,030
[3] 正 味 財 産 の 部			
正 味 財 産			417,448,922
(うち基本金)			(8,000,000)
(うち当期正味財産増加額)			(7,182,833)
負債及び正味財産合計			422,445,952

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の141%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期残高
貸付信託 (中央三井信託銀行)	7,580,000	0	0	7,580,000
" (三菱信託銀行)	420,000	0	0	420,000
合 計 (基 本 金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	13,947,856	14,709,077	
未 収 会 費	4,524,000	3,960,000	
そ の 他 未 収 金	784,980	0	
合 計	19,256,836	18,669,077	
前 受 会 費	271,000	161,000	
預 り 金	135,580	144,410	
合 計	406,580	305,410	
次 期 繰 越 収 支 差 額	18,850,256	18,363,667	

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取 得 価 格	減 価 償 却 累 計 額	当 期 末 残 高
建 物	144,423,000	0	144,423,000

富士山 麓	油 - A 25	茨木猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形 - 6	中村清太郎	本 会
群 狼	墨 絵	石井 鶴三	本 会
伊豆半島	油 - 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
徳本峠から徳高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
鳥(カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	本 会
メールドグラス	エッチング		本 会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュアギトワト	本 会
ユングフラウ	油	山里 寿男	伯耆国山岳美術館
湖沢より北穂高	水彩 - 6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油 - 10	中村清太郎	本 会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	本 会
北穂高滝谷	油 - 25	足立源一郎	本 会
或朝の槍ヶ岳	油 - 25	足立源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油 - 25	足立源一郎	本 会
槍ヶ岳	油 - P 8	足立源一郎	本 会
タンボチエの僧院	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山(清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油 - 12	後藤 三男	本 会
早朝の上高地山岳研究所	版画 - 8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩 - 10	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画 - 8	鈴木 正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバルワ峰暮色	油 - 10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山 晩霞	本 会
上高地秋景	油 - F 20	後藤 三男	上高地山岳研究所
マチャブチャレ	油 - 20	武井 清	本 会
朝 霧	水彩 - 8	越智 英夫	本 会
白樺の林	油 - 6	茨木猪之吉	本 会
麓 春	油 - P 50	倉員 辰雄	本 会
ヒマラヤダーズリンにて	油 - F 4	上野 春香	伯耆国山岳美術館
タムセルク	油 - 30	武井 清	本 会
安曇野の春	油 - 30	後藤 三男	松本アルプス山岳館
ヒマラヤの古都	油 - 30	藤江幾太郎	本 会
アルパータ	油 - 6	レオン・アマン	本 会
ケ ル	油 - 6	金光 義郎	上高地山岳研究所
山	油 - 6	辰沼 広吉	本 会
アルパータとピッケル	水彩	カナダ山岳会	本 会
題名不詳 24枚	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
題名不詳 8枚	油 - 6	茨木猪之吉	本 会
題名不詳 12枚	水彩	茨木猪之吉	本 会
スケッチブック	32冊	茨木猪之吉	本 会
ロンブクよりエベレスト	版画	H. ソマベル	大町山岳博物館
白馬残照	版画	鈴木 正俊	本 会
穂高連峰	版画	小暮 真望	本 会
安曇野と常念岳	版画	小暮 真望	本 会
尾瀬と燧ヶ岳	版画	小暮 真望	本 会
谷川岳	版画	小暮 真望	本 会
シダング山晩秋	版画	鈴木 正俊	本 会
檜洞丸山荘	版画	鈴木 正俊	本 会

(他の絵画、写真 省略)

2. 図書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	平成13年度受入冊数 213冊	蔵書計 10673冊
洋 書	平成13年度受入冊数 69冊	蔵書計 3634冊

負債合計	4,997,030
正味財産	417,448,922

注1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳総索引、山岳覆刻版等	913,520
服 飾 品 ・ そ の 他	クラブタイ、タイ止等	883,278
合 計		1,796,798

注2) その他固定資産内訳

1. 建物及び土地

A 事務所及び図書室		
場所	東京都千代田区四番町5番4号	
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付 5階建 (事務所) 区分所有建物1階部分 103.32㎡ 宅地持分 1,124.56㎡×339/10,000 = 38.122584㎡ (図書室) 区分所有建物1階部分 55.22㎡ 宅地持分 1,124.56㎡×176/10,000 = 19.792256㎡	
計	158.54㎡ 宅地持分 57.91484㎡	72,720,170
B 上高地山岳研究所		
場所	長野県南安曇郡安曇村4469番地1	
構造	鉄筋コンクリート造(一部木造) 1棟 274.09㎡	118,000,000
合 計		190,720,170

2. 什 器 備 品

品 名	取得年月日	取得価格	所 在
書庫内移動書架一式 コンパックル	S53.02.10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル(木製2台)	53.09.28	250,000	"
ライティングビューロー(木製)	54.06.23	280,300	事務所
フィルム収納キャビネット (スチール製)	56.08.08	254,000	"
書 棚(木製2段)	56.12.22	500,000	図書室
16mm映写機 16-CL (MO)	61.05.13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付(2台)	62.09.24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョン一式	H2.07.19	587,932	事務所
世界対応VTR 001 NWV	4.05.11	250,000	"
小型気象ファクシミリ JAX-9	4.10.19	320,000	"
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	5.03.20	250,000	山 研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	5.03.20	280,000	"
ナショナルBS付ビデオ HV-BS50S	5.03.20	250,000	"
ミニ水力発電装置	11.11.30	3,816,750	"
シャープ・ノートパソコン PC-MJ700R	13.02.28	190,000	事務所
合 計		9,584,982	

財産目録記載外のその他物品リスト(主として受贈品)

1. 絵画

題 名	種類・号数	作者名	掲載、保管場所
白 馬 岳	油 - A 50	中村清太郎	大町山岳博物館

6月8・9日	探索山行「フォッサマグナと塩を探る」(科学)	大網峠
6月14～16日	白神岳ブナ植樹(集会)	白神山地
6月15日	新日本山岳誌編集委員会	本会
6月16日	クライミング集会(青年部)	多摩スポーツ会館
6月29・30日	三ツ峠レスキュー講習会(指導)	
6月	第9回古道を歩く(図書)	
6月	沢登り集会(学生部)	
7月12～14日	自然保護全国集会(自然保護)	北海道
7月15日	同好会連絡会議(総務)	本会
7月25日	東カラコルム登山報告会(青年部)	
7月	上高地山研特別展(資料)	
7月	全国山岳遭難対策協議会(遭難対策)	宇都宮
7月	講演会「山の気象」(科学)	
8月	フォーラムIN(自然保護)	
9月6日	ビールパーティー(総務)	本会
9月7日	名誉会員を囲む会(総務)	本会
9月14～16日	奥又登山とプチ・オータムコンサート(山研)	上高地
9月	第11回山を語る(図書)	
9月	救急法講習会(指導)	
9月	自然観察山行(自然保護)	伊豆
9月	小川山懇親会(学生部)	
9月	講演会(資料)	
9月21・22日	全国支部懇談会(広島支部)	宮島
9月26～29日	キノコ山行(集会)	知床・羅臼岳
10月19日	新入会員オリエンテーション(総務)	本会
10月19・20日	焼岳登山と講演(山研)	上高地
10月	第6回全国山岳博物館等連絡会議(資料)	
10月	講演会「登山の衣服について」(科学)	
10月	森づくりシンポジウム(自然保護)	
10月	冬山講習会(学生部)	
11月10日	上高地山岳研究所閉所(山研)	上高地
11月	第34回山岳図書を語る夕べ(図書)	
11月	大学山岳部監督会議(遭難対策・学生部)	
11月	シンポジウム「登山に適した食料について」(科学)	
11月	マラソン大会(学生部)	
11月	山岳フィルム映画上映会(フィルムビデオ)	
11月28日	明大ローツェ・アンナブルナ報告会(青年部)	
12月7日	支部長会議(総務)	高輪プリンスホテル
12月7日	年次晩餐会(総務)	高輪プリンスホテル
12月8日	年次晩餐会記念山行(集会)	
1月11～13日	スキー懇親山行(集会)	
1月	冬山報告会(学生)	
2月15・16日	全国支部事務局担当者会議(総務)	
2月	第31回山岳史懇談会(図書)	
2月	冬山技術講習会(指導・学生部)	八ヶ岳
2月	講演会「未定」(科学)	
2月	自然観察山行(自然保護)	千葉・房総
未定	医療委員会講演会(医療)	

2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

- * 上高地山岳研究所の運用
- * 受入れ資料保管
- * 各博物館、美術館との提携強化
- * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導

- * 5月 一の倉沢レスキュー講習会
- * 6月 三ツ峠レスキュー講習会
- * 7月 全国山岳遭難対策協議会への出席(宇都宮)

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点	「マナスルに立つ」他
ビデオ	252本	「モンブランの嵐」他

社団法人 日本山岳会 平成13年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、及び財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成14年4月5日

社団法人 日本山岳会

監事 内田 博

監事 古市 進

監事監査報告

平成14年4月5日に行った平成13年度(平成13年4月1日～平成14年3月31日)に於ける会計の監査ならびに期中の業務監査の結果を、次の通り報告する。

記

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧等、必要と思われる手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。

業務監査については、理事会等に出席し、業務執行の妥当性を検討した。

監査意見は次の通り。

- (1) 現金については、監査日当日現在の残高と、帳簿の金額は一致し、正しく出納されているものと認める。
- (2) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は本会の収支状況及び財政状態を正しく示しているものと認める。
- (3) 事業報告の内容は、真実であると認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令、定款に違反する重大な事実はないと認める。
- (5) 前年度監査で指摘された、各委員会活動の内容を見直し整理・統合・充実を図る件については、平成13年度は殆ど検討する余裕がなかったため、引き続き努力する。
- (6) 円滑な業務の執行に資するため、理事会資料等の内容及び作成手順の整備を図る。

以上

(社)日本山岳会 平成14年度事業計画

2002年4月1日～2003年3月31日

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、及びシンポジウムの開催

4月11日	第30回山岳史懇談会(図書)	本会
4月14日	高尾の森植樹祭(自然保護)	高尾山
4月	山菜を味わう会(集会)	
4月	講演会「探索山行についての予備学習」(科学)	
4月	学生部総会(学生部)	
4月29日	上高地山岳研究所開所(山研)	上高地
5月17日	支部長懇談会(総務)	YMCA
5月18日	支部長会議(総務)	YMCA
5月18日	通常総会(総務)	YMCA
5月19～22日	若葉山行(集会)	屋久島
5月23日	登山報告会「春季のすぐれた登山の報告会」(青年部)	
5月25・26日	一の倉沢レスキュー講習会(指導)	谷川岳
5月	第22回日本登山医学シンポジウム(医療)	京都
5月	日帰り探索山行(科学)	箱根
5月	新入部員歓迎会(学生部)	
5月	山岳写真講座(フィルムビデオ)	
6月1・2日	新入会員のための「徳本峠越えとウェストン祭」(山研)	上高地
6月2日	第56回ウェストン祭(信濃支部)	

雑 収 入	800,000	800,000	0
雑 収 入 計	950,000	1,000,000	△ 50,000
7.特定預金取崩収入	0	0	
当期収入合計 (A)	84,420,000	82,390,000	2,030,000
前期繰越収支差額	18,363,667	18,850,256	
収 入 合 計 (B)	102,783,667	101,240,256	

科 目	平成14年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
II. 支 出 の 部				
1. 事 業 費				
出 版 費	11,100,000	11,080,000	20,000	
図 書 管 理 費	400,000	600,000	△ 200,000	
調 査 研 究 費	3,300,000	3,180,000	120,000	
指 導 費	1,350,000	1,300,000	50,000	
支 部 関 係 費	12,500,000	12,500,000	0	
海 外 諸 関 係 費	400,000	400,000	0	
山 岳 研 究 所 運 営 費	4,950,000	4,040,000	910,000	
海 外 登 山 補 助 費	1,600,000	1,600,000	0	
そ の 他 事 業 費	9,000,000	9,000,000	0	
印 刷 ・ 製 本 費	1,000,000	2,400,000	△ 1,400,000	
刊 行 物 発 送 費	5,300,000	5,300,000	0	
事 業 費 計	50,900,000	51,400,000	△ 500,000	
2. 管 理 費				
給 料 ・ 手 当	12,400,000	12,400,000	0	
文 具 ・ 消 耗 品 費	350,000	300,000	50,000	
印 刷 ・ 製 本 費	1,100,000	1,000,000	100,000	
旅 費 ・ 交 通 費	800,000	700,000	100,000	
通 信 ・ 運 搬 費	1,200,000	1,200,000	0	
保 険 料	320,000	320,000	0	
修 繕 費	200,000	300,000	△ 100,000	
租 税 公 課	500,000	500,000	0	
光 熱 水 料 費	1,000,000	600,000	400,000	
電 話 料	470,000	470,000	0	
会 議 費	200,000	300,000	△ 100,000	
什 器 備 品 費	200,000	300,000	△ 100,000	
振 替 手 数 料	700,000	700,000	0	
福 利 厚 生 費	250,000	300,000	△ 50,000	
事 務 所 管 理 費	1,000,000	1,000,000	0	
そ の 他 管 理 費	2,900,000	3,000,000	△ 100,000	
負 担 金	100,000	120,000	△ 20,000	
貸 借 料	5,500,000	3,240,000	2,260,000	
雑 費	1,000,000	1,000,000	0	
管 理 費 計	30,190,000	27,750,000	2,440,000	
3. 固 定 資 産 取 得 支 出				
什 器 備 品 購 入 支 出	0	0	0	
固 定 資 産 取 得 支 出 計	0	0	0	
4. 特 定 預 金 支 出				
長 期 計 画 積 立 金 支 出	5,000,000	5,000,000	0	
秩 父 宮 記 念 賞 基 金 支 出	1,000,000	1,000,000	0	
海 外 登 山 基 金 支 出	0	0	0	
終 身 会 費 積 立 金 支 出	0	0	0	
退 職 給 付 引 当 預 金 支 出	0	0	0	
特 定 預 金 支 出 計	6,000,000	6,000,000	0	
5. 予 備 費				
予 備 費	1,500,000	1,500,000	0	
当 期 支 出 合 計 (C)	88,590,000	86,650,000	1,940,000	
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	△ 4,170,000	△ 4,260,000		
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	14,193,667	14,590,256		

- *9月 救急法講習会
- *通年 日山協・労山・都岳連との合同調査活動

4. 自然保護活動の推進

- *自然保護委員会による自然保護指導者養成のための「山の自然学講座」
- *自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行
- *自然保護委員会による「高尾の森づくり」
- *「山のトイレマナーノート」の配布

5. 機関誌等の発行

- *山岳第97年(2002年)の発行
- *会報683号～694号の発行
- *インターネット・ホームページの更新
- *海外向英文誌「Japanese Alpine News」発行
- *青年部会報「きりぎりす」発行

6. 国内及び外国山岳団体との情報交換

- *国内関係団体(日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HAT-J・その他)との連絡
- *海外登山団体との機関誌の交換及び情報誌の購入
- *「国際山岳年」記念事業に参加

7. 海外登山等

- *日印合同登山 東カラコルム・パドマナブ

8. その他目的を達成するために必要な事業

- *山岳図書の整備
- *山研ミニ水力発電装置稼働運営
- *海外登山基金による助成
- *第5回秩父宮記念山岳賞の授与
- *100周年記念事業の計画推進
- *百年史の編集
- *「新日本山岳誌」の編集
- *その他

平成14年度 収支予算書

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで

科 目	平成14年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
I. 収 入 の 部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	10,000	30,000	△ 20,000	
2. 会費・入会金収入				
入 会 金 収 入	4,600,000	4,000,000	600,000	
通 常 会 費 収 入	68,000,000	67,000,000	1,000,000	
終 身 会 費 収 入	0	0	0	
会費・入会金収入計	72,600,000	71,000,000	1,600,000	
3. 事 業 収 入				
広 告 料 収 入	2,200,000	2,900,000	△ 700,000	
印 税 収 入	10,000	10,000	0	
刊 行 物 売 上 収 入	350,000	250,000	100,000	
山 研 使 用 料 収 入	3,500,000	3,000,000	500,000	
そ の 他 事 業 収 入	4,800,000	4,200,000	600,000	
事 業 収 入 計	10,860,000	10,360,000	500,000	
4. 補 助 金 等 収 入				
補 助 金 収 入	0	0	0	
5. 寄 付 金 収 入				
寄 付 金 収 入	0	0	0	
6. 雑 収 入				
受 取 利 息	150,000	200,000	△ 50,000	

報告

REPORT
6月

自然保護委員会

「高尾の森」から

二度目を迎える「高尾の森」の植樹祭は、4月14日晴天のもとに執り行われた。参加者は昨年を上回る307名を数え、大塚会長、芳賀副会長、理事をはじめ林野庁関係の方々、協賛をいただいた京王グループの方々、寄付をお寄せ下さった各団体関係者他、数多くの本会会員の参加をいただいた。

今年の植樹地は、裏高尾、ザリ



植樹をする大塚会長

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

クボ沢、景信山に登り上げる登山道沿いの斜面に、AからHまでの8地区を選定し、昨年12月から地ごしらえ作業に入り、着々とその準備を進めてきた。月1回の作業日には、藪を切り払い、作業道を作り、苗木を植える土地を拓いてきた。取り組み始めた当初、どうなることかと思われた荒れた斜面が、回を追うごとにそれらしく形作られていく。

3月に入ると臨時作業日が設けられ、急ピッチで作業が進められ、毎週高尾に足を運ぶこととなる。植樹祭を目指して万全を期そうと参加者の気持が凝集されてくる。各地区ごとに分担するリーダーを定め、作業参加者も分担地区を固定した。各グループの名にかけて万全を期そうとする工夫があちこちで見られ、植樹祭前日の作業日

には、整地された斜面に苗木と同数の篠竹が立てられ、準備された1500本の苗木の指定席が用意された。ガレキの多い植栽地には土が運び込まれ、植栽直後の苗木にと、水も運び上げられた。植えた苗木は1本でも多く、いや、1本も枯らしたくないとの思いが込められてのこと。昨年の植栽地での活着は、今のところ良好である。今年の苗木も、同様にぜひ根付いて欲しいとの願いが深まる。

植樹祭当日、恒例のセレモニーの後、集まった参加者には、慣れない手に鋤を持ち、苗木を持って植栽地に向かい植樹をしていただいた。植樹終了後、キャンプ跡地に設けられた本部前で、用意したトン汁を味わってもらった。8歳の少女は「とっても楽しかった!」、11歳の少年は「バランスの良い山になって欲しいです」などの感想を残してくれた。参加者の多くには、おおむね植樹を楽しんでもらえたというところであろうか。

山岳会の中に同期会というものが認定され、最初につくられた92同期会が、今年で結成10周年を迎える。準備段階からグループで参加を重ねられ「自然を愛し、日ご

ろの山への感謝の気持ちを具現化したい」と、記念植樹されたことを特記したい。各グループの責任者は、安全への気配りで疲労が何倍にもなったとか。何の事故もなく植樹を終了。

植樹は子育てと一緒に。植えたときから育樹が始まる。ひとり立ちできるまで育て上げるのが植えた私たちの義務、会員の皆様には、今後ともご協力をお願いしたい。各方面から、ご寄付、ご協力をたくさんいただきました。心からお礼申し上げます。(西村智磨子)



高尾の森に307名が集合!

92同期会

第16回山行・高尾の森植樹

同期会結成10周年の記念すべき山行は記念植樹を主に、時間的に余裕があれば景信山まで登ろうという、従来とは少々趣を異にした山行になりました。

と言うのは、記念山行の持ち方に対し、昨年来、喧々譁々の議論が重ねられ、曲折の末、日本山岳会が管理している「高尾の森」に記念植樹を行おうではないかということに、落ち着きました。

4月14日、裏高尾、景信山中腹に日本山岳会が大規模な植樹祭を計画しているとの情報を入手し、この祭典に合流することへの了承を得られたのはまことに幸運でした。このため、昨年11月から延べ9回計55名の会員が記念植樹のための準備作業に現地入りし、事務局の皆様と行動を共にすることになりました。つまり、第16回記念山行を記念植樹祭と位置づけ、周到な準備を重ねてきたということになります。

植樹祭当日はすばらしい好天に恵まれました。総勢14名がクワやツルハシを担いで景信山中腹に登

り、急峻な崖にあらかじめ切り拓いておいた側道に沿って、これらの用具を使い5種150本の落葉樹を植えることに成功しました。

95、97同期会の方たちが友情参加してくれ、大いに感謝するとともに、自然保護委員会の皆様には物心両面で大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。植樹に予想外の時間を費やしたため景信山登頂は見送り、またの機会を待つことにしました。

93年以降の同期会の皆様、記念植樹に挑戦してみませんか。会の団結強化にまたとない機会になると思います。(沼田 俊雄)

三水区

第435回現地集合
竹寺から子の権現

三水会の竹寺山行も、はや25回目となりました。2000年に三水会創立25周年を迎えましたが、創立期よりの山行には、その間本堂の火災とか雪の山行、春一番に吹かれたことなど、長い歴史が刻まれています。

2月9日午後池袋に集合、飯能行きに乘車、タクシーにて竹寺着。

鐘撞堂に登り、奥武蔵の山々を眺めました。境内も季節が早いせいか、紅梅、白梅、福寿草など花も少ない感じでした。

夕餉は住職の説明を聞きながら精進料理と竹筒での薬湯に舌鼓、なおこの寺の食膳の器はすべて竹製です。

翌朝完成の近い本堂を眺め、豆口峠より子の権現へ、健脚祈願をして下山。途中浅見茶屋でビールとお酒、手打ちうどんをいただき吾野駅で解散しました。

参加者27名。(樋口 公臣)

山げらの会

クロスカントリースキー報告

今年の季節の歩みは早い。4月12日、新潟県六日町の国際YH(ユースホステル)周辺では、三分咲きの桜と所どころの残雪が春の到来を告げていた。同好会山げらのリーダー、山本良子さんと今日は足慣らしということで集まった8名で巻機山山麓に向かう。小雨の中、3合目にあるヘリポートで、1時間弱ジグザグ歩きの練習をした。夜17名が集合して自己紹介となる。ほとんどが首都圏と

地元の会員で、福島、愛知、岐阜が各1名だった。

13日は、YHのバスで銀山平に向かう。青空に八海山が美しい。水仙から満開の桜まで一度に咲いた山里を通り、シルバレーンの長いトンネルを抜けて積雪3層の銀山平に着いた。西は新雪で真っ白に輝く越後駒ヶ岳と中ノ岳、南は荒沢岳に囲まれた静かな雪原である。スキーを履いて北の又川左岸をゆるやかに30分ほど下り、左の枝沢に登る。

休憩の後時間をかけて下降を楽しみ、銀山平にて昼食。YHの内

ワインを直輸入しています

主にフランスはブルゴーニュのワインを中心に輸入しています。こだわりの無名ドメーヌを発掘!! 今、ワイン界に新風を送っています。SO2の少ないピュアなおいしいワインを、毎年フランスに行きドメーヌから直接買いつけています。素晴らしいおいしさです。ぜひお試しください。全国発送いたします。ホームページをご覧ください。
<http://www.winedou.co.jp/>
トップコンテンツのマキノレポートは山とワインのレポートです。メールマガジンもよろしく。

マキノ酒店有限会社 牧野 菊生
(会員8299番)
千葉県印旛郡富里町日吉台5-10-7
TEL: 0476-93-2200
FAX: 0476-93-7548

●日本ソムリエ協会関東支部ワインアドバイザーコンクール入賞 ●フランス食品振興協会(ソベクサ)認定コンセイエ(小売店のソムリエ) ●ワイン総合研究所公認名譽ワインマスター

山所長が山菜の天ぷらや豚汁を用意して下さり、幸せな気分である。午後は北ノ又川の広い右岸をさかのぼる。まばらに樹林が展開する。気持ちのよいコースを2時間弱、イワウチワのつぼみが群生する尾根まで登って引き返した。

14日、シルバートンネル終点、奥只見丸山スキー場を目指す。高曇りの空の下、リフトに1本乗りスキーコースに沿って樹林帯を登ること1時間、丸山頂上の南端に陣取り昼食となる。眼下には奥只見湖、西には昨日の越後駒ヶ岳、南方には燧岳や平方岳の白く雄大な広がりに見飽きることはない。

午後は問題の下り。皆さんの板は、クロカン、テレマーク、カービング、ネイチャーと多彩で腕前も多様。上部の急斜面を優雅に楽しむ人、早々につぼ足で下る人などさまざまである。2時に全員集合。バスでYHに戻り、24時間いつでも入れる温泉で汗を流し、皆さんよりひと足先に家路に着いた。山げらの会の公募による今年のスキー合宿も、総勢17名の参加を得て、巻機・銀山平・奥只見周辺で春の里山を楽しむことができた。

(久野 菊子)

Climbing & Medicine · 10

腎臓病と山登り

濱口 欣一

「会社の健康診断で血尿、蛋白尿を指摘されたのですが、山に行っても良いのでしょうか」こんな質問をしばしば受けることがあります。かかりつけのお医者さんに相談したら、と返答したところで、そのお医者さんが腎臓専門医であるとは限らないし、仮に専門医であってもスポーツドクターであるとは限りません。スポーツをする人にやるなど言うのは酷なことであり、その点、スポーツドクターは障害度に合わせたポジティブな情報を提供することができます。今回「腎臓病と山登り」を考えてみましょう。

腎臓病の発見動機には、学校検診、職場検診などの健康診断や、風邪に罹患した時に医療機関を訪れ、偶然に尿所見異常(血尿、蛋白尿)を指摘されることなどがあります。この所見には、軽少な疾患から重症な疾患まで含まれているので、注意が必要です。

まず、内科腎臓専門医に相談し、正確な診断をしてもらうことです。運動負荷が腎臓病

に及ぼす影響にはいくつかの報告がありますが、長期間の影響はまだ明らかにされていません。軽症で非進行性と考えられる疾患では厳しすぎる運動制限は良くありません。身体的にも心理的にも、健康を増進するために運動を積極的に行った方が良い場合があります。しかし、この場合には激しい運動負荷が腎疾患を進行、悪化させることがないように十分観察することが重要な条件になります。

腎臓病といってもその内容は多岐にわたりますが、ここでは日常しばしば遭遇するIgA腎炎に関して述べます。運動負荷後の種々の検査データは、その病理組織像によって非常に異なることが明らかにされています。たとえば、病理組織像が良くない人は、運動負荷後の検査データも良くありません。一方、同じような腎組織像を呈する患者群を、運動制限群と運動負荷群の2群に分けて検査をしたところ、1～1.5年後に6人中腎臓機能が悪化したのは、運動制限群で5人、運動負荷群では1人という結果が得られ、日常生活における適度な運動は、決定的な腎障害進展因子にはならない、という報告もみられます。むしろ体力が向上し、IgA腎炎が改善されたという報告さえなされています。

だからといって、自分勝手に判断することは厳に慎み、腎臓専門家に相談をしながら結論を出すことを十分に認識すべきです。病気の状態を十分に理解し、楽しい山登りをしたいものです。

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

宮崎支部

第18回宮崎支部総会 国際山岳年に燃ゆる

4月6日、宮崎市浄土江町の宮崎市中央公民館大会議室において開催された第18回宮崎支部総会は、会員95人（うち委任状41人）出席のもとに、熱気あふれる総会となり、予定時間をオーバーする盛り上がりを見せた。

開会に先立ち、物故会員の冥福を祈って黙祷をささげる。総会にあたり、大谷優支部長の挨拶は情熱のほとばしるものとなった。昨年度、支部活動の成果は、総務・山行・集会・自然保護各委員会の献身的な努力と、会員のメンバー

シップの発揮である。今、まさに日本一に燃えたるJAC宮崎支部であると自負して止まない。今後も「継続は力なり」を合言葉に、熱いハートを奏でながら、楽しく啓発された山行を続けたい。

「山は海の恋人」と鎌倉時代の初期に「川上川下の理論」を主張された道元禪師の含蓄ある言葉に思いをいたし、21世紀に生きるものとして、この教訓を実践目標とし、2002年の国際山岳年への取組を、さらに2005年宮崎支部創立20周年記念事業へと発展させたいと、支部長の力強い宣言であった。

総会では、平成13年度の事業報告と収支決算報告に続いて、2002年国際山岳年に対応する14年度の事業計画（毎月の定例登山研究会・同定例会・宮崎ウエストン祭・新日本山岳誌・清掃登山・水源の森育林事業など）および、予算案（自然保護活動・支部運営積立金・記念事業積立金・遭難対策費・みやざき百山調査費など）について原案通り可決承認された。続いて、平成13年4月、支部規約の一部改正に伴い、総務・山行・集会および自然保護各委員会の活

動実績を踏まえた「宮崎支部内規」の全面改正を行い、2005

年の宮崎支部創立20周年記念事業の推進を図るための特別委員会の設置をはじめ、会員の退会・休止および復活届、名誉支部会員の取扱い、慶弔費の支出などについて協議し、原案通り可決承認された。

「特別講話」では、大西雄二会員が「宮崎県の中高年の自殺」と題して、検視医師として見た自殺の原因・背景などについて統計から分析した説明に、改めて人間としての生き方を教えられた。

総会終了後、会場をオリエンタルホテルに移して懇親晩餐会が行われた。1年間の定例山行・水源の森育林作業・全国支部懇談会などの活動状況がスライド上映され「あの日のあの時」の感動を新たに山行意欲を燃え上がらせた一日であった。

秋田支部

平成14年度定期総会報告

秋田支部の平成14年度定期総会が、4月20日17時30分から、市郊外の温泉地、霊峰大平山の麓に近い「貝の沢温泉」で開催された。

温泉地での総会開催は十数年ぶりと思われる。

出席会員の半数はひと風呂浴びた、まさに湯あがりの顔。気持は既に懇親会場だが、そこをぐつと我慢の総会会場。会員総数72名、出席会員25名、委任状27、参加率は72割、昨年に比べ2ポイント減である。

支部長挨拶のあと直ちに議事に入り、昨年度の事業報告では、支部の自慢できる事業のひとつとなつた韓国との交流親善登山の成功と、新しいルートが開かれた県内の名峰のひとつ「大仏岳」山行成功が話題を集めた。

支部会報も4回発行し、通算51号となつた。決算報告や監査報告が承認されたあと、平成14年度の事業計画案が提案され、韓国や台湾の岳人たちとの交流登山の継続、北海道・東北支部の集会、全国支部懇談会、全国自然保護集会、本会主催の諸会議への参加と、会報の3回発行などが、予算案とともに全員一致で承認された。

温泉地でのんびり総会ながら短い時間に建設的な議論が飛び交い、内容の濃い総会になったことは喜ばしい。

（鈴木 要三）

海外の山

お弁当つくって
二人でノースコルへ

ついに立ったノースコル 斎藤豊・真理夫妻 (2002.5.26)

「最高齢」「七大陸最年少」など、何かと年齢についての話題が多かった今年のエヴェレストだが、ここでは「カップル」の話。

エリック・サイモンソン率いる国際公募隊で、アメリカのフィル(51)・スーザン(46)・エルシャー夫妻が5月16日、サウスコル・ルートからエヴェレストに登頂、おそらく世界ではじめて「すべて一緒に登った夫婦

江本 嘉伸

セブン・サミッター」になった、と「ErebusNews.com」は、伝えた。

エヴェレストのカップルといえは一年前、登頂後パラパント飛行したフランスのベルトラン夫妻が記憶に新しいが「夫婦登頂」ということで話題になった最初の2人はドイツのシュマツ夫妻だろう。1979年秋、2人はサウスコルから登頂したが、妻ハンネローネ(39)は、女性第四登をなしとげながら下山途中、滑落遭難、帰らぬ人となった。

日本では、エヴェレスト山頂に夫婦でアタックしたケースはないが、5月、ノースコルを目指して見事目的を達成したカップルがいる。

「5月26日、ふたりそろってノースコルへ到達しました。ガスで景色はほとんど見えなかったけど、この10カ月を振りかえって涙があふれました。行けて、ほんとによかったです」そう話すのは、川崎市に住む斎藤豊(30)・真理(29)夫妻。きつかけは弁当だった。

昨年7月、松本市で「エコアルプス・イン松本」というイベントが開かれた。世界的な登山家、冒険家と日本の若者が一堂に会してフォーラムを開き、美ヶ原、槍ヶ岳に登るという内容で、その際「エコ弁当コンクール」が企画された。山で食べる弁当をエコロジー思想を盛り込んでつくってきてもらう、というユニー

クな試みで、力作ぞろいの弁当の中で見事「最優秀」に選ばれたのが斎藤夫妻の「セブン・サミッツ弁当」だった。

おかげで世界地図をかたどり、7つのおにぎりで大陸最高峰を表現するという意欲的な作品で味も素晴らしい(筆者も実は試した)。で、その一等の賞品がなんと「ノースコル割引到達資格」というたまげる内容だったのだ。

フォーラムに招かれたひとりに、公募登山のリーダーとして知られるラッセル・ブライスがおり、弁当コンクールの審査員ともなった彼から特別賞品として提供されたのだった。通常、ノースコルだけの登山は許可されないが、最近になって、特例として認められるようになっていた。ブライス隊では「ひとり5000ドル」だったが、それを「3000ドルでいい」というのが賞品だったのである。無料というのではないし、普通はすぐには飛びつきにくい。が、決断は早かった。

「ふたりで行きます」

夫はコンピューター技師として、妻はシステム・エンジニアとして多忙な日々を送る斎藤夫妻にとつて、難問は、7000mの高さにどう順応できるか、そして何よりも会社が休暇を認めてくれるか、だった。会社をどう説得するか、トレーニン

がうまくできないなど悩みの日々をふたりはメール・マガジン「North(ノース)への道」に書き綴っている。しかし、期日ぎりぎりに4週間の休暇が許可され、勇躍5月上旬、はじめてのヒマラヤへ旅立った。

高度障害と戦いながら、ふたりは17日、無事チョモランマのベース入りした。そこで昨年の松本フォーラムのパネリストのひとりで、それ以来、斎藤夫妻の「山の師匠」となってくれている東大生山田淳(23)の「登頂」の報を知る。山田はラッセル・ブライスの隊で8300mのテントから「この日の登頂一番乗り」となるスピードで登りきり「七大陸最高峰最年少登頂を達成」したのだ。

山田の下山後、斎藤夫妻の戦いが始まった。ベースキャンプに3泊、中間キャンプに1泊、前進ベースに4泊。「急な雪壁はノースコル直下だけと思ってたのに、あちこちに出てきてバテました」と真理。しんどかったが、実りあるノースコルだった。エコ弁当を実質ひとりずつつくった豊は、人生にも大きな味付けをした。真理は、年末から海外青年協力隊員としてネパールのポカラに赴任する予定だ。

最後に訂正。前月号で三浦雄一郎氏の父敬三さんを「96歳の現役」としましたが「98歳の現役」の間違い。ふーむ、98歳。

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき一〇〇〇字程度をお願いします)



『スويس日記』のエッシェン湖周辺

岡澤 祐吉

昨年11月、本会名誉会員のS・ブラヴァントと、スイスを代表する名誉ガイドのヘルマン・シュトイリの墓参りをグリーンデルワルトの教会墓地ですませた。どちらも第二次大戦前に日本人登山客をガイドした人たちである。

この同じ月、たまたま私がスイス山岳会25周年会員章をもらいに寄ったセクシヨンの総会で、セクシヨンが管理を担当している山小屋、フリュンデンヒュッテの管理人で山岳救助に貢献し30年になるフリッツ・ローレタン(山岳ガイドでエアハルト・ローレタンの兄

弟)の表彰が行われた。このフリッツが話していたことを少しお知らせしたい。

辻村伊助が『スويس日記』で何力所かに書いているエッシェン湖を訪ねる日本人がこのところ年々増加し、近ごろでは彼が管理している山小屋まで登ってくる者がいるというのである。

グリーンデルワルトを訪ねる日本人観光客の多さはツェルマットなど他の場所と比較できないほど多いと、今回会ったグリーンデルワルト観光局の人から聞いたが、エッシェン湖への出発地となるカンデルシュテークにもその人波はおし寄せつつあるという。第二次大戦後、グリーンデルワルトがアイガー北壁をねらう日本人でにぎわったころ、楨さんと山行をとにした

エミール・シュトイリは誰にでも「楨と友達か」と聞き「そうだ」と答えると、それ以上詳しく尋ねることもなく楨さんの友達として扱ってくれたという。このことがどのような結果になったのかはわからないが、少なくとも私に対するサムエル・ブラヴァントの場合は用意周到でだいぶ違っていたように思う。

カンデルシュテーク近辺の山関係者はブラヴァントもユーコー・マキのことも大抵知っている。この地域に足を伸ばす諸賢には日本人であるより、JACの者であることで相手に親近感と安堵感を与えるように、とひそかに思うのである。

悪沢岳がとりもつ縁、大村晃平の子孫のこと

平野 武利

昨年の秋、女性の声で一本の電話をいただいた。滝澤ますみさんという、私が写真集『山頂にて』(山と溪谷社)を出版したときに、愛読者カードが送られてきて、年賀状も交わしたりしたことのある

方で、東京にお住まいである。話はその本の中でサンシャイン60ビルの屋上や、陣馬山の山頂から撮ったパノラマ写真の中に、真白く写っている悪沢岳のことだった。彼女はこの写真集で故郷、山梨県早川町の下湯島の真西に位置するその山の名を、親しみを持って記憶したと言っている。

ところが最近『週刊・日本百名山』(朝日新聞社)悪沢岳のページをめくっていると、引用されている深田久弥氏の文章の中に、なんと大村晃平という彼女のご先祖様の名が出てきて、思わず身体の

地球のてっぺんに立つ感動の旅

世界で唯一のチャーター企画。壮大なる夢が実現

北極点への船旅

2002年8月19日(月)～9月3日(火) 16日間

●募集人数99人限定 ●169万円～219万円



ALPIN ツアー サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F TEL.03-3503-1911
大阪/TEL.06-6444-3033 名古屋/TEL.052-581-3211 福岡/TEL.092-715-1557

中を電流が走ったという。つまり彼女の祖父のまた祖父が大村晃平なのである。この甲州の一獵師がさりげなく言った悪沢岳という名が荻野音松によつて紹介され、やがて確定的なものになった。その経緯については『山岳』2001年に再録された荻野音松と小島鳥水の文章を読んでいただきたい。

さて実はますみさんの祖父孝司



大村家のアルバムより 中央が晃平、左端が富基

さんは平成7年に85歳で亡くなりました。その七回忌をやるので実家から写真を借りてきたりして準備していた矢先にこの文章にあつてびっくり仰天、このことを調べようと私に電話がかかってきたのである。孝司さんの父が富基。その父つまり法要をする孝司さんの祖父が晃平さんだったのである。今回

のことにについて、ますみさんは次のような文章(要約)を寄せているので、読んでいただきたい。

『日本百名山』を読んでから半年後、山岳会のおかげで私はようやく荻野氏の紀行文に辿りつくことができた。

この紀行文は実に詳細に書かれていて面白い。見たまま、感じたままが率直に、時にユーモアも交えながら書かれている。晃平おじいさんと荻野氏の二人の間に信頼関係が築かれていっただろうことや、荻野氏の優しさが行間に感じられて私はとてもうれしく思った。

偶然にも『山岳』最新号に、荻野音松氏の『駿州田代山奥横断記』が掲載されたと平野氏より知らせを受けた。そしてそれが縁で編集をされた南川金一さんにお会いする機会を得、我が家にあつた古い写真が紀行文を書いた人物であるか否か、検証してもらった。

結果は荻野氏でも小島氏でもなかったが、ほかにもご先祖様の名前の記述がある資料を教えてください、荻野氏の写真にも出会って私としては十分満足だった。

私が今こうして、ご先祖様のことが書かれた古い記録を読むこと

さんけん通信

地球の命の滴

管理人 木村太郎・弥生

私たちが山研の管理人をさせていただいて、早いもので5シーズン目になります。憧れの上高地での生活は、都会生活では味わえない豊かさに包まれています。自然の豊かさは言うまでもないことですが不便さゆえの豊かさというのが存在することも知りました。

食糧などの生活必需品の買い出しという点では松本まで下りるのですが、往復100km強という道のりは買い忘れがあつたとしてもフラツと行くには厳しい距離です。買い忘れたマヨネーズ、唐突に食べたくなつたうどん、ピザ

ができるのも山岳会の存在があればこそ、である。その創始者のひとりでもある小島鳥水氏の紀行文との出会いもまた、私にとつて新しい宝物の発見であつた。

思えばこれも不思議な縁である。もし、平野氏の本を買わねば悪沢岳のことも知らないままだったろうし、深田氏の『日本百名山』を読むこともなかったかもしれない。また深田氏の文章に『田代山奥横

など、自分たちなりに手作りするようになりました。欲しいものが何でもすぐ手に入った都会生活では考えられなかったことです。食卓に苦勞して作つたチーズ(もどき)が並ぶと、味はともかくその愛着はひとしおです。買い物物の不便さが私たちを少しだけ成長させてくれたようです。

またここ山研で不便というと、水です。沢水を100%生活用水として取り入れているため、取水口の点検や季節ごとのトラブルなど、手のかかることがいっぱいあります。それでも気持を注いで管理している水の味は日本一だと思つています。山研の蛇口から出てくる水を『地球の命の滴』だと感じられるようになったことは、豊かな経験をさせていただいてお陰だと思つています。

断記』の引用がなかつたら、荻野音松氏にも小島鳥水氏の文章の中にある曾々祖父に巡り会うこともなかつただろう。すべての連鎖がご先祖様の啓示によるもののような気がしてならない。

今回のことでは山岳会の横山厚夫氏がすぐに資料のリストを送ってくださつたり、篠崎仁氏や、図書室の田村さんにも多くのご教示やご協力をいただいた。

ご先祖様たちも山を通して人との出会いをし、そして繋がり、その山に鍛えられ、育てられた。山は、私にとってもかけがえのない存在である」

多くの山を愛する人たちの心が繋がって、ここに大村晃平の姿が明るみに出てきた。悪沢岳の名を呼ぶたびにきつと思いきすである。私もその小さなつながりのひと役を果たし得たことを、とても幸せに思っている。

登山と呼吸(下)

千葉 重美

■酸素の功罪

人間は酸素無くしては生きていけない。酸素を摂取するために呼吸運動をしている。したがって呼吸運動が行われなくなること、呼吸困難などは人間の生命を閉ざすことになる。酸素は外界にあるが、どのような状況で摂取されるかが非常に重要なことである。酸欠は天幕内のみならず、高所登山で起こるときは酸素ボンベを携行して呼吸の手助けをする。また昨今では国内の軽登山にも1リットル入りの酸

素を持参して呼吸の手助けをする。

この大気中にある酸素は、誰もが自由に無限に吸収しているが、永遠にそうであるとは言い難いと予測される。今世紀の半ばには人口は100億を超える。すると、酸素はこの地球大気で賄えるだろうかと真剣に訴える御仁も出てきている。よって地球大気の消費に制限を加えたり、それを科学的に測定し制限させている。呼吸では酸素の吸入における量的な課題であるとともに酸素とて全てが同質のものだけとは言えない。

高所低圧下では酸素が不足するが、高所登山にも人間の体験や努力により無酸素登山化する事例は多くある。だが反対に酸素濃度の高い空気、あるいは酸素圧の高いケースでは、活性酸素(別称・酸素毒)に悩まされる恐れがある。このように過ぎたるは及ばざるがごとしのたとえではないが、酸素の功罪は逃れきれない。

自然とともにある水も、今日自然水として市販されるものとの品質差が生じている。このように、地球規模的な排出炭酸ガス規制でも先進国のエネルギー消費量が多

く国際的にも問題を投げかけていることは、'92地球サミット、'97京都会議での議定書の件において周知の事実でもある。ヒマラヤの高峰登山では酸素が必需品である。高所トレーニングの有用性にはまだ議論を呼ぶ面もある。しかしマラソン選手の有森裕子の銀メダル、高橋尚子の金メダルともに全て高所訓練の賜物とは言いがたい面もある。その成果は立証されているものの研究検討にはまだ多くの余地を残している。

■登山者こそ地球社会貢献者

21世紀の人口予測は2050年には100億になるといわれる。地球上で生きる人間の食糧がどう賄われるだろうか。エネルギーの消費量が増大することによる地球規模での危機感が増大することは予測される。

人間に不可欠な空気、その中の酸素ははたして全人類に充足するのだろうか。と気を配らざるを得ない。人間が生きていくための酸素の取り合いはしないで済むだろうか、と安閑とした状態にいるわけにもいかない。酸素が不足してきて必要量を充足させるのには、

「山の本」春の新刊発売!!

エベレスト 61歳の青春

川田哲二 著 A5判 280頁 本体2,400円

1970年、8千米峰の中で最難といわれたダウラギリ第2登に成功した著者が、61歳で憧れのエベレストに挑む。

御嶽の風に吹かれて—開田高原への招待—

久山喜久雄 著 四六判 180頁 本体1,900円

木曾御嶽の東麓、雄大な自然と文化の脈打つ開田高原に暮らす人々の姿と四季の移ろいを綴る。

葛城の峰と修験の道 (2002年5月刊行予定)

中野栄治 著 A5判 304頁 予価 2,800円

友ヶ島の序品窟から大和川の亀瀬までの葛城28品の峰と経塚を辿り、修験道史料を実地検証した山岳信仰の研究書。

カラコルム・ヒンズークシュ登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入 385ページ+B全判地図13葉

宮森常雄・雁部貞夫 共著

◎好評発売中!! 定価(本体33,000円+税)

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2

Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665

URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

かなりの費用がなければならない。今日でもあるとき、ある場所では商品としての酸素を購入し、所持して吸入使用することが行われている。飲用水では特別飲用水として市場にパック詰めのもので出回っている。

フランスでは昔から飲用水はヴイッシー(ナチュラルミネラルウォーター)と決まっていた。他はいつさい飲用水には使用しない。すなわち水、空気にかかわらず使用需要量が拡大するにつれて選別されて品質によって飲用水の商品価値が決まる。

人口100億人時代の深刻な食糧不足が懸念されることは常識的理解である。地球温暖化についても酸素の供給に従って排出炭酸ガスを規制するという'92地球サミット、'97京都会議の規制議定書でも先進諸国に協調しえなかった我が日本。多くの人が一瞬前世紀の国際連盟脱退の日本を思い出して身震いを禁じえなかったはずだ。通常酸素も今世紀中頃には需要商品として取り上げられ、その購入に身を乗りださねばならないであろう。

地球資源は限りがあるからリサ

イクルの意義を改めて考えたい。製品には替えられない原材料を汚染していることを自覚し、人間の存在の基本は呼吸にあるから、無駄な代謝をしないことまで煮詰めねばならない。地球温暖化現象から地域で異文化吸収が行れ、他文化に侵食されている事例は多い。

親国ネパール皇太子の王室尊属殺害など、個人的な縁談に対する親の反対が弟、妹まで及び、本人の身をも失う大惨事になった。日本文化であれば本人同士の心中だがいかに時代を変えたか。地域地球化の新文化化、どうみても納得できない。地域地球文化は大きく行動を変えてきている。

エヴェレスト・マラソンの意義を主張するイギリス人は、途上国の人の酸素の摂取が少ないからこそ今日の先進国の人は生き永らえるという。寿命が長いのもそこにある。少しでも酸素の少ない中で行動することこそ、先進諸国に生きるものに対する教えである。これは真理に反しては存在しない。よって常に自然を愛し登山をするものは心身ともに鍛えられ、山の高低に関わらず地球への貢献度が高いことになる。

会務報告

4月理事会

日時 4月10日(水) 18時30分～20時40分

場所 日本山岳会会議室

〔出席者〕大塚会長、芳賀、村井各副会長、今村、高原、朴元、藤本、宮下、松原、鈴木、黒川、河西、高遠、中村、鳥居、小川各理事、内田、古市各監事、宇田川、鯉坂各常任評議員

〔委任〕長尾副会長、西村、坂井、大野各理事、平林、宮崎各常任評議員

◎大塚会長より年度初めの挨拶。

「私の任期もあと1年、バトンタッチをスムーズにしたい。当会の活動は山登りが基本、その活性化を今後重点としたい。当会の財務体質は改善されている。100周年事業に向けて、募金委員会をしっかりやるのが大切。その他の委員会にも、そろそろ人を張り付かせる時期だ。理事会の皆さんや常設委員会には協力してもらいたい。私は週1回ドアオープン、理事会当日は早めに来室しているので個別の相談にのりたい」

〔審議事項〕

1 平成13年度事業報告(案)について 高原(西村代行)

別添資料により報告があった。

(承認)

2 平成13年度収支決算報告(案)について 村井副会長

別添資料により報告があった。

(承認)

以上につき古市・内田両監事より、4月5日の監査結果につき「何れも正確適正に処理されている(貸金庫の現物照合は15日に予定している)」との報告があった。なお、予算費目の用語統一を図るようにとの指摘があった。

3 長期改善計画策定プロジェクト検討メンバー委嘱について 高原(西村代行)

別添資料により標記メンバー候補者案が提案された。主な内容は次のとおり。

●目的

現在、平成13年9月理事会決定の計画に沿って長期改善計画策定のための検討がされている。以下の検討メンバーを委嘱し、意見を出してもらい、その案を参考とする。

●検討メンバー候補者(敬称略・

順不同)

長尾悌夫、小倉茂暉、中村保、黒川恵、藤本慶光、平林克敏、田邊壽、尾上昇、吉永英明、橋本清、川田哲二、伊丹紹泰、内田昌子、真仁田美智子、重広恒夫、山森欣一、江本嘉伸、柳沢昭夫、大谷亮、大蔵喜福、谷川太郎、宗像充

以上22名。

なお、メンバーは流動的に考えており、会合は2組に分かれて2、3回を予定している。

(承認)

〔報告事項〕

1 資料等使用、名義後援許可などの願いについて 高原

以下の依頼に対して許可した。

①駐日ネパール大使館より「第1回ネパール写真展―心の故郷ネパールと白銀のヒマラヤ―」(平成14年10月3日より13日まで新宿三省堂文化会館にて開催)への名義後援。

②読売新聞社より「国際山岳年記念く山のスケッチ賞」(平成14年12月中旬開催予定)への名義後援。

(3月理事会において概要報告済)

2 日印合同東カラコルム踏査・パドマナブ登山隊について

村井副会長(坂井代行)
インド政府より正式許可書はき

ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをここが得意です。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町23 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋区千穂区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422

ていない。軍の許可は出たが内務省の許可待ち状況。

募金カンパは許可が下り次第案内発送予定。出発までに募金額が目標達成できない場合、会で仮払いの処置をとる。

3 日中国交30周年記念行事の提案について

村井副会長(坂井代行)
中国登山協会より標記提案として「日中女子チョー・オユー記念登山」(両国隊員各6名で今年の秋を予定)があった。現在、登山費用、隊員など検討中。案がまともれば理事会に提案したい。なお、

図書受入報告 (2002年4月)

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
片倉もところ・他(編)	イスラーム世界事典	473pp/22cm	明石書店	2002	堀井昌子氏寄贈
安田成男(編)	山脈越えて:札幌山岳会創立50周年記念誌	214pp/26cm	札幌山岳会	2002	発行者寄贈
木下寿男	山の軍曹カールを駆ける:中央アルプス遭難救助の50年	250pp/19cm	山と溪谷社	2002	出版社寄贈
山と溪谷社編集部(編)	乗鞍・御嶽・霧ガ峰「ヤマケイ・アルペンガイドNo.17」	295pp/19cm	山と溪谷社	2002	出版社寄贈
ウォーク・コーポレーション(編)	花の百名山登山ガイド(上)北海道・東北・北関東・上信越 他	191pp/21cm	山と溪谷社	2002	出版社寄贈
ウォーク・コーポレーション(編)	花の百名山登山ガイド(下)南関東・奥秩父・日本アルプス 他	191pp/21cm	山と溪谷社	2002	出版社寄贈
坂田恒衛	ユーラシア秘境の山旅「ユーラシア・ブックレット No.30」	63pp/21cm	東洋書店	2002	ユーラシアーズ寄贈
鈴木弘道	山の高さ[新版]	391pp/20cm	古今書院	2002	出版社寄贈
高橋信一	東北の避難小屋144 完全ガイド	144pp/21cm	理想舎	2002	著者寄贈
長崎北稜会(編)	シャーズ峰6050m:長崎北稜会ヒンドウクシュ登山隊1993	234pp/30cm	長崎北稜会	1994	発行者寄贈
JAC青年部(編)	きりぎりす(No.6)	62pp/26cm	JAC青年部	2002	発行者寄贈
田淵洋(編著)	自然環境の生い立ち[第3版]:第4紀と現在	206pp/21cm	朝倉書店	2002	出版社寄贈
一原有徳	あの山かの友:心に残る山と人との追想録	206pp/21cm	茗溪堂	2002	出版社寄贈
紫蘭会(編)	タスマニア原生国立公園とブルーマウンテンズ・トレッキング 2002	44pp/26cm	紫蘭会	2002	発行者寄贈
水越武	天然の蘭:The Natural World of the Orchid	193pp/23cm	小学館	2002	出版社寄贈
Stellrecht (ed.)	Culture Area Karakorum Scientific Studies (Vol.1)	647pp/24cm	Rudiger Koppe Verlag	1998	Mr.Heichel寄贈
Stellrecht (ed.)	Culture Area Karakorum Scientific Studies (Vol.2)	240pp/24cm	Rudiger Koppe Verlag	1997	Mr.Heichel寄贈
Stellrecht et al. (eds.)	Culture Area Karakorum Scientific Studies (Vol.3)	509pp/24cm	Rudiger Koppe Verlag	1997	Mr.Heichel寄贈
Stellrecht (ed.)	Culture Area Karakorum Scientific Studies (Vol.4)	1286pp/24cm	Rudiger Koppe Verlag	1998	Mr.Heichel寄贈
Stellrecht et al. (eds.)	Culture Area Karakorum Scientific Studies (Vol.5)	429pp/24cm	Rudiger Koppe Verlag	1998	Mr.Heichel寄贈
A.Dittmann (ed.)	Culture Area Karakorum Scientific Studies (Vol.6)	270pp/24cm	Rudiger Koppe Verlag	2000	Mr.Heichel寄贈
M.Sokefeld (ed.)	Culture Area Karakorum Scientific Studies (Vol.8)	383pp/24cm	Rudiger Koppe Verlag	1997	Mr.Heichel寄贈
S.Lentz(ed.)	Culture Area Karakorum Scientific Studies (Vol.9)	443pp/24cm	Rudiger Koppe Verlag	2000	Mr.Heichel寄贈
DAV (ed.)	Goppinger Himalaya-Karakorum-Expedition 1976	32pp/20cm	Deutschen Alpenverein	2000	Mr.Heichel寄贈

- 坂井高所研究委員会担当理事が留守になるので、担当として松原、朴元両理事を予定している。
- 4 各委員会報告
- ①総務委員会 高原
- 支部長会議を5月18日10時よりまた前夜19時より支部長懇談会を予定。多くの参加を募る。
- ②財務委員会 村井副会長
- 平成14年3月31日現在の会員数は5992名。昨年比2名増。
- ペイオフ対策として4月6日開催した財務委員会の報告(平成14年3月末現在の現預金、特定預金状況)が別添資料によりあった。
- ③会報編集委員会 今村
- 4月号巻頭は、平成13年度海外登山基金助成対象の3隊(日本大学・サンルン峰、同志社大学・ロンドン・カンリ、JAC・東カラム・パドマナム)の紹介。
- ④高所登山研究委員会
- 村井副会長(坂井代行)
- 宮森常雄氏の講演会「カラコルム・ヒンズークシュ」を4月22日(月)19時より当会集会所にて開催予定。
- ⑤山研委員会 小川
- 上高地旅館組合および環境省より、山研管理人・木村太郎氏への

自分の想いを、 「本」にしませんか。

——山岳書をつくるプロが、発刊のお手伝いをします——

山行記録集のほか、紀行・随筆・歌集・句集・詩集・写真集・記念誌などを、お望みの形や様式でつくることができます。まずは、お気軽にご相談ください。

素晴らしい資料をお送りします。お問い合わせ・お申し込みは——

Tel.075-212-1320 Fax.075-212-1321
E-mail work@skyblue.ocn.ne.jp

TAKEUCHI 制作室
GRAPHIC ARTS & EDITORIAL

〒604-0862 京都府京都市中京区錦町5-1-10 山研ビル201号

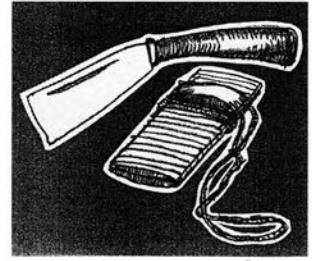
インターネット・プリンターおよびガイドウォークの依頼について、山研委員会は前向きに捉え(平成13年10月理事会で報告)、来年度より試験的に取り組みたい。

以上の報告に対し、主体は誰か、2000円/人の参加費の扱いをどうするかなど検討し、うまい方向で進めてもらいたいとの意見があった。

5 その他

当会会議室の会務関係の利用を優先する予約システムを確立してほしいとの要求が出された。総務委員会で検討することとなった。

INFORMATION



イラスト・宇都木慎一

◆第19回全国支部懇談会

広島支部

設立5年の若い支部ですが、楽しい会になるよう力を合わせて準備をしています。

日時 9月21日(土)～22日(日)

第1日 会場 宮島ホテルまこと

受付13時30分 懇談会15時

親睦会18時

第2日 登山 宮島駒ケ林(50

9畝) 大元公園

観光 厳島神社、大鳥居、

宝物館、千畳閣ほか

費用 1万8千円(翌日オプショ

ン三倉山登山は実費別途)

申込 7月31日までにハガキに住

所、氏名、年齢、会員番号、

電話番号、支部名、参加コ

ースを明記し吉村千春宛

(〒730・0806広島

市中区西十日町1・13(TEL

082・297・4040)

*申込者には詳細を送付します。

◆気象講座 科学委員会

恒例の夏山前の気象講座。

日時 7月4日(木)18時30分～20時

会場 日本山岳会集会所

講師 城所邦夫会員(元日本気象

協会)

問合せ 丸山修一(TEL03・52

12・7035 eメール

kagaku@jac.or.jp

◆登山の常識(第1回)

「山の救急・救助法」講習会

指導委員会・遭難対策委員会

万一事故に遭っても、基本的な救

急・救助法を知っていれば安心。

日時 7月27日(土)～28日(日)

費用 1万5千円(上高地西糸屋

泊2食代・保険料)

第1日 山の救急法、手当ての基

本、外傷、打撲、捻挫、骨

折、搬送法など。

第2日 焼岳登山。

集合 西糸屋前13時。現地解散

講師 恵秀彦会員(日赤救急法指

導員)

定員 20名

申込 7月10日までにハガキで黒

川恵(〒161・0031

新宿区西落合1・7・14)

*申込者には案内を送付します。

◆フォーラムIN安曇野・小谷

自然保護委員会後援

「自然と人間の暮らしを考えるフ

ォーラムIN」主催。

日程 8月23日(金)～25日(日)

場所 長野県豊科町・小谷村ほか

費用 24500円(東京からの

バス代別途11000円)

第1日 豊科町田淵行男記念館見

学後、交流集会「フォーラ

ムin安曇野」

第2日 A常念岳登山、B雨飾山

登山、C塩の道を歩く、D

榎池ハイキング。

第3日 A鎌池・湯峠ハイイク、B

小谷村公民館「フォーラム

in小谷」

申込・問合せ 大山恭司(TEL・FAX

048・683・5539

〒330・0005 さい

たま市小深作220・8)

*折返し詳細をお送りします。

◆奥日光・光徳懇親例会

95同期会

学習院光徳小屋にて懇親会、翌

日は白根山登山を予定しています。

日程 7月13日(土)～14日(日)

集合 現地に13日17時

費用 7000円

日本山岳会ホームページが
変わりました

公益法人の情報公開の動きに
対応し、ホームページ(HP)
のリニューアルをしました。

山岳会の年間活動予定や各委
員会の活動報告、決算報告など
をHP上に公開しています。

会員の皆さまへのサービス向上
に「ルームの予約状況」「図書室
の蔵書紹介」などの掲載もあり
ます。

また各委員会、支部、同好会
でHPを構築しているところに
は、その内容更新を各会の担当
者にお任せする予定です。

実際のHP作成・管理にあた
り、次のような方を募集してい
ます。

●支部だよりのページを作成す
る支部の方

●HPのデザイン関係に強い方
ご協力いただける方は左記宛
にご連絡ください。

jac-info@jac.or.jp

三上博民

(インターネット小委員会)

申込 7月2日までに氏名、会員番号、年齢、連絡先を明記

しハガキかファックスで阿

世知義幸宛(〒187-0

004 小平市天神町2-

206-1-401 TEL・FAX

042-344-5778)

◆奥多摩キャンプ 96同期会

希望により翌日は山行も。

日時 8月24日(土)25日(日)

場所 奥多摩氷川キャンプ場

集合 24日14時に直接現地ロツジ

7へ(駐車場あり)

申込 7月31日までに菅原紀彦宛

(〒183-0032 府

中市本宿町1-32-1サン

ライズビル7-303 TEL

042-336-0041

norie@nw.ejnet.ne.jp)

■会員異動

物故

加藤正巳(6896) 01・9・17

河端繁(13283) 01・11・6

桑原良敏(8217) 01・12・4

西英二(10511) 02・2・17

退会

桑木綱一(5797)

大洞陽一(6605)

野尻卓(9607)

福田 稔 (8478) 秋田

森田靖郎 (6978)

日高和也 (9690) 宮崎

橋野達雄 (9895) 京都

橋本喜久一 (10137) 京都

伊藤幸太郎 (10473) 京都

田宮京子 (10719)

平山 寛 (10769)

山田益弘 (11167) 福井

妻藤昭郎 (11285) 関西

森忠賢治 (11567) 福井

児玉健二 (11582) 宮崎

西山正子 (11878)

泉 隆雄 (12432) 岐阜

堀内輝章 (12899) 広島

改名

増田孝治(12831) 増田晃児

ルーム日誌

4月

1日 総務委員会

2日 アルパインスケッチクラブ

高尾の森づくりの会 二火

3日 長期改善計画策定プロジェ

クト 山岳地理クラブ 山

の自然学研究会

4日 青年部 アルパインフォト

クラブ つくも会

5日 財務委員会

8日 アルパインスキークラブ

会報編集委員会

9日 常務理事会 ファイルムビデ

オ委員会 二火会 アルパ

インスケッチクラブ

10日 理事会 休山会 つくも会

11日 図書委員会 山の自然学研

究会 会報編集委員会

12日 高所委員会 高尾の森づく

りの会

15日 資料委員会 集会委員会

16日 総務委員会 ファイルムビデ

オ委員会 95同期会 00同

期会

17日 山研運営委員会 学生部

遭難対策委員会

18日 青年部 科学委員会 97同

期会 01同期会

19日 学生部

20日 評議員会

23日 自然保護委員会 インター

ネット小委員会 フォトビ

24日 デオクラブ 96同期会

25日 図書委員会

26日 青年部 高尾の森づくりの

会 アルパインスキークラ

ブ 98同期会

高尾の森づくりの会

4月来訪者 676名

■訂正 5月(684)号17ペー
ジ3段、会員異動欄の退会者山崎
英雄氏は誤りでした。お詫びして
訂正します。

◆編集後記◆

●今年のプレモンスーンのヒマラ
ヤ登山も活気ある情報が多く次号
で詳しくお伝えできると思います。
●インド、パキスタンの緊張状態
の中で、東カラコルムのパドマナ
ブ登山隊が気になります。外務省
から退避勧告が出されたため、直
ちに現地と連絡をとりましたが、
インド側は「現地は安全。登山を
続行する」とのことです。日本隊
だけの独自行動はとれない旨、ニ
ューデリーの日本大使館に説明し
ました。隊員は全員元気で、6月
14日にはBC建設、6月末に登頂
予定とのことです。(今村 千秋)

日本山岳会会報 山 685号

2002年(平成14年)6月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

ホームページ: <http://www.jac.or.jp>

Eメール: jac-info@jac.or.jp

発行者 大塚博美

編集人 今村千秋

印刷 株式会社 双陽社